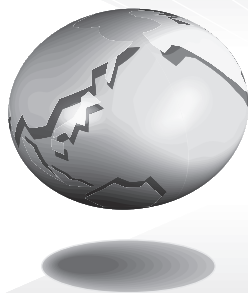


国際研究集会派遣報告



平成 29 年度 国際研究集会(海外前期)派遣会員報告書

派遣国際研究集会 : European Congress of Radiology(ECR)2017
 開催場所 : Vienna, Austria
 開催期間 : March 1-5, 2017

ECR2017 参加報告 ～日本放射線技術学会総合学術大会との比較～

派遣員 吉田 礼 東北大学大学院, 栗原市立栗原中央病院

はじめに

2017年3月1日～3月5日の5日間、オーストリアのウィーンで開催された欧州放射線学会(European Congress of Radiology 2017)に平成29年度前期国際研究集会派遣会員として参加する機会を得たので報告する。

研究発表内容

私は education poster (EPOS)として演題“Measuring Modulation Transfer Function Using a Single Thin-plate Phantom in Magnetic Resonance Imaging”を発表し、複雑な構成のファントムや手順を用いることなく、シンプルな単板ファントムと手順により簡便にMRIの解像特性の計測が可能であることを報告した。

ECR2017に参加して

大会の傾向としては臨床に関するものが多く、特に被ばくや小児検査、標準化に関するものが目立った一方、画質検討に関する発表は少なかった。ECRは国際学会ということでさまざまな国の方々が発表していたが、英語で上手く話せず苦勞しながらも、座長の協力を得て無事発表を終える方が多くみられた。また、分野や国別に分けて小規模な会場でEPOSを基に発表、討論を行う“Voice of EPOS”という名称のセッションが開催され、活発な討論が行われていた。ECRに参加して感じたことは、日本放射線技術学会総合学術大会における研究発表のレベルはECRと比較して

全く引けを取らないものの、ECRで英語を共通言語として各国の方々と国際的な場で討論し合うことが可能であることは、多くの討論を経て研究を深める上で非常に重要だということである。いつか日本放射線技術学会総合学術大会が国際学会として海外から多くの研究者を迎え、多様な討論が行われるようになればと思う。

謝辞

ECR2017に参加するにあたり、国際研究集会派遣会員として助成をいただきました日本放射線技術学会の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。また、研究発表にあたりご指導いただきました東北大学大学院医学系研究科の町田好男教授ならびに栗原市立栗原中央病院放射線科の皆様に深く感謝申し上げます。



Photo EPOS会場エントランス前にて(筆者)

ECR2017に参加して

派遣員 芳賀喜裕 仙台厚生病院

はじめに

2017年3月1日から3月5日までの5日間、オーストリア・ウィーンにて開催された欧州放射線学会 (European Congress of Radiology: ECR2017) に平成29年度前期国際研究集会派遣会員として参加させて頂き、electric presentation online system (EPOS™) で発表する機会を得たので報告する。

発表内容

私は、“Educational Exhibit” というカテゴリで、タイトルを“Occupational Eye Dose of Staff in Interventional Cardiology”として電子ポスターによる発表を行った。現在、水晶体等価線量は、体幹部もしくは頸部の個人線量計から得た1 cm または 70 μm 線量当量を用いた間接的な方法で管理されている。しかし、International Commission on Radiological Protection (ICRP) 2011年勧告の水晶体等価線量限度の引き下げにより、従来の管理方法を精度上継続してよいのか検討が必要であった。そこで、われわれは、水晶体等価線量を直接測定可能な3 mm 線量当量線量計 (DOSIRIS) と従来の個人線量計 (ガラスバッジ) を用いて、心臓カテーテル領域のスタッフの水晶体被ばくを評価した。結果は、放射線防護メガネを着用すれば、ICRPの新線量限度を超えることはないが、ガラスバッジの評価では過大に限度を超えるため、DOSIRISでの管理方法を推奨するという内容である。

ECRの印象

海外学会での発表は、第100回RSNAに引き続き、2回目となる。会場は、国連事務局のあるVienna International Centreの隣のAustria Center Viennaで、学会参加者は約21,000人であった。規模の大きさに圧倒されたRSNAと異なり、学会会場内は、欧州の学会らしくユニークで華やかな印象を受けた。至る所に学会カラーのピンク色と花柄があしらわれており、エントランス中央にはドクロのオブジェがあり、プロジェクションマッピングと融合し、学会を盛り上げて



Photo ECR会場にて(左:筆者, 右:東北大学 千田教授)

いた。発表形態もさまざま、1,000人規模の大ホールで行うものから、聴講者と気軽にディスカッションできるような“Voice of EPOS”など多様であった。また、ベーシックレクチャーや放射線技師向けのセッションもあり大変勉強になった。今回の経験を踏まえ、今回は口述発表に挑戦したい。

謝辞

ECR2017への参加にあたり、国際研究集会派遣会員として助成をいただきました日本放射線技術学会の関係者の皆様方に厚く御礼を申し上げます。また、研究発表にあたりご指導いただきました東北大学医学系研究科保健学専攻の千田浩一教授、研究室の皆様ならびに仙台厚生病院放射線部の皆様方に深く感謝致します。

初めて参加した国際学会

派遣員 川崎康平 千葉県循環器病センター

はじめに

The European Congress of Radiology (ECR) は The European Society of Radiology (ESR) が年 1 回開催している学会である。今回 ECR2017 に国際研究集会派遣会員として参加する機会をいただいた。その経験について、私見を交えて以下に供覧する。

発表内容

私は electronic presentation online system (EPOS) にて “Optimization of Radiation Dose to the Pyramidal Tract by Use of Tractography in Treatment Planning for Stereotactic Radiosurgery” というタイトルで発表した。定位放射線治療計画にトラクトグラフィを結び付け、錐体路線量を定量・最適化するという内容である。これまで錐体路線量は客観的に数値化できなかったが、本法によって可能となった。われわれの検討では、トラクトグラフィを用いる前後で病変体積の 95% を包含する線量に有意差はなく、錐体路線量を有意に減少させることができた。

ECR を選んだ理由

主な理由は二つ。①ESR が発行する European Radiology 誌の査読経験、および②演題募集から開催までが同一年度内であることである (Table)。①から私を reviewer に選んでくれた編集者に親しみを感じたため、抄録を投稿する挑戦意欲が沸いた。②について、われわれ千葉県職員は 3 月末の人事異動発表で翌年度の勤務配置が決定される。行政職 (県庁・保健所勤務) となった場合には学会参加そのものが困難とな

り、年度を跨いだ学術活動を行いにくい。つまり、演題登録から発表まで単年度で完結することが望まれるためである。

ECR2017 の印象

発表で用いられる言語は英語であったが、会場内ではそれ以外の言語で会話する参加者が多くみられた。察するに、私たちのほかにも母国語ではない英語で学術的な活動や情報共有する方が多くいるということであろう。これは論文執筆や査読をしていても感じていたことであるが、自身の考え・意見を伝える道具として英語を使えるようになることの重要性を改めて感じた。また、心に残ったセッションとして 3 月 4 日 (土) の “A team approach towards ensuring patient safety and care” を挙げる。この中ではチーム医療の実践に



Photo エントランスのドクロのオブジェ

Table ECR 2017 timeline

July 4–October 15, 2016	Abstract Submission Scientific Papers
July 4–October 15, 2016	Poster Abstract Submission to EPOS™ (Electronic Presentation Online System)
July 4–October 15, 2016	Student Abstract Submission, Scientific Papers
July 4–October 15, 2016	Invest in the Youth Programme Application Open
July 4–December 18, 2016	Abstract Submission Clinical Trials in Radiology
July 22–December 12, 2016	MSK Manifestations of Systemic Disease (Case-Based Diagnosis Training) Submission
August 31, 2016	ESR Membership Application Deadline for reduced ECR 2017 fees
Beginning of September 2016	Online Registration Open
August 16–December 16, 2016	Poster Upload to EPOS™ (for Accepted Abstracts)
November 30, 2016	ESR Membership 2016 Final Application Deadline
December 2016	Notification of Paper Abstract Acceptance (Oral Presentations)
March 1–5, 2017	ECR 2017

おける読影について論じられていた。わが国では診療放射線技師の読影補助に関して学会で議論されるようになって久しいが、ヨーロッパでも同様であることは初めて認識したことであり印象的であった。

謝 辞

ECR2017に参加するにあたり、国際研究集会派遣

会員として助成いただきました本学会の小倉明夫代表理事をはじめ国際戦略委員会関係各位に謝意を表します。また、国際学会参加へ背中を押していただいた当センターの景山貴洋部長およびここまで育ててくださった職員の皆さまに感謝いたします。最後に、結婚記念日にもかかわらず海外出張を許してくれた妻子に感謝したい。

ECR2017に参加して

派遣員 山崎暁夫 三重大学医学部附属病院

はじめに

平成29年度前期国際研究集会派遣会員として2017年3月1日から3月5日まで、オーストリア、ウィーンで開催されたECR2017に参加する機会を得たので報告する。

研究内容

私は electric presentation online system (EPOS) の “Scientific Exhibit” で “Improvement of Contrast Enhancement in Composite Image at Dual Source CT by Adding Iodine Map” というタイトルにて発表を行い、2管球CTによるデュアルエネルギー撮影で得られる合成画像にヨードマップを加算することでコントラストを改善するという基礎物理評価について報告した。

ECR2017に参加して

ECRは周知のとおりRSNAに次ぐ放射線学会ということもあり、研究発表だけでなく聴講者参加型の教育セッションや、Radiographersといったセッションがとても充実していた。また、Clinical Trials in Radiology というセッションでは現在進行中の最先端の研究(乳腺や心臓領域など)に触れることができた。そして、これらの充実したプログラムが複数の会場で行われているため聴講したいものが重なっていることも多々あるが、多くのセッションが録画されておりECRのホームページから随時、聴講することが可能である。また携帯用のアプリもダウンロード可能と

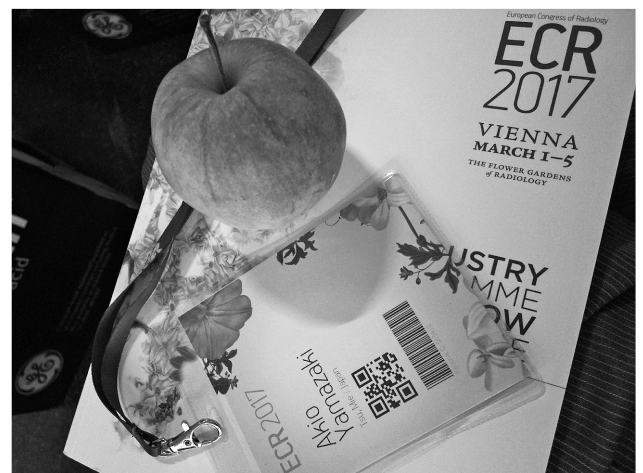


Photo 会場ではリングが配られている

なっているので、あらかじめ予定を組んでおくと効率よく聴講できる。今回 ECR に参加し吸収したことを今後の臨床、研究に活かしたいと思う一方、語学力の重要性を痛感した。

謝 辞

ECR2017に国際研究集会派遣会員として参加する機会を与えてくださった日本放射線技術学会小倉代表理事をはじめ国際戦略委員会、会員の皆様に感謝申し上げます。また学会出席を快諾していただいた三重大学医学部附属病院中央放射線部の技師諸兄の皆様、指導していただいたCT室の同僚に感謝いたします。